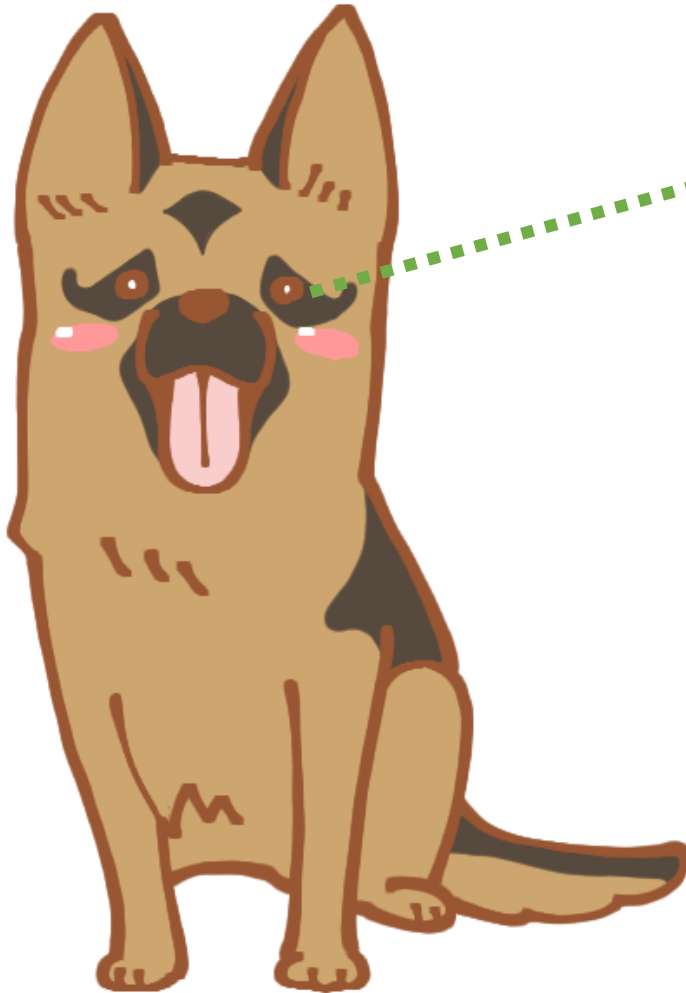


CEA コリー眼異常



CEA コリー眼異常とは

脈絡膜の局所的な発育不全や網膜内の過剰な血管新生を起こします。重度の場合は失明します。

代表犬種

オーストラリアン・シェパード、スムース・コリー、ボーダー・コリー、北海道犬、ラフ・コリー 他

発症年齢

眼底検査により5～8週齢に網膜の菲薄と発育不良により診断されることが多く、1歳以降に発症することはまれである。

遺伝子検査結果の見方

CEA コリー眼異常は 常染色体劣性（潜性）遺伝です。



ノーマル（クリア） AA

野生型のみ検出される（変異が検出されない）場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

キャリア（ヘテロ接合） Aa

野生型と変異型の両方が検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。

ただし、他のキャリア、もしくはアフェクテッドの個体との繁殖は、対象となる疾患の発症リスクが高い子が生まれる可能性があるため、配慮が必要です。

アフェクテッド（変異ホモ接合） aa

変異型のみ検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは高い**です。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、劣性遺伝の場合はキャリアと表記します。

